



札幌信用金庫・北海信用金庫との合併について

小樽信用金庫は
札幌信用金庫並びに北海信用金庫と
平成30年1月1日に合併し
「北海道信用金庫(しんきん北海道)」としてスタートします。

※合併は関係当局の認可を前提としております。



現 北海信用金庫 現 札幌信用金庫 現 札幌信用金庫 現 小樽信用金庫
理事長 西田 覚 理事長 前田 繁利 会長 吉本 淳一 理事長 佐林 史明

平成29年6月15日開催の当金庫並びに北海信用金庫の通常総代会及び平成29年6月19日開催の札幌信用金庫の通常総代会において、三金庫は対等合併することを決議しました。

三金庫は、道央圏を主要な営業基盤として、創業以来の長い歴史の中でそれぞれ独自の伝統を育みつつ、地域の皆様から愛顧いただき、地域の安定と繁栄に努めてまいりました。

今後、平成30年度に北海道横断自動車道の小樽・余市間が開通し、更に平成42年度には北海道新幹線が札幌まで延伸されることで三金庫のエリアの結びつきは一層強まってまいります。一方で、人口減少や高齢化が顕在化しつつあり、地域を取り巻く環境は大きく変化しております。

こうした中、信用金庫が将来にわたり地域で信頼され必要とされる金融機関であり続けるには、「まち・ひと・しごと創生」への貢献は勿論のこと、これまで以上に地域密着の姿勢を強めるとともに、より強固な経営基盤を構築することが不可欠であると考えます。

本合併を機に、お客様のご期待にそえる地域金融機関として、また、皆様から信頼され支持される金融機関として、地域経済活性化と地方創生に大きく貢献してまいります。

<北海道信用金庫の目指すもの>

1. 本合併を機に地域の皆様に、より安定的な資金の供給と、それぞれのライフサイクルに応じた各種金融サービスを継続的にご提供し、高度化・多様化するご要望に、よりの確にお応えできる信用金庫を目指します。
2. 三金庫が有する経営資源の有効活用により経営基盤を一層強化して、地域社会の発展と中小企業の育成に向けた取組みを更に充実させ、景気のサイクルに左右されない質の高い金融仲介機能を発揮できる信用金庫を目指します。
3. 三金庫の総合力を発揮し利便性を高め、よりきめ細かな営業を展開しつつ各種リスク管理の高度化を進めることにより、営業基盤と経営体質の一層の強化を目指します。

北海道信用金庫

略称「しんきん北海道」

<新金庫の概要>

道央圏の
約300万人が住むエリア
(道内人口の約55%相当)



※下記の三金庫各計数を単純合算しております。

<三金庫の概要>

北海信用金庫

預金残高
4,133億円
貸出金残高
2,055億円
自己資本額
297億円
自己資本比率
16.27%
店舗数(代理店を含む)
36店舗



札幌信用金庫

預金残高(譲渡性預金を含む)
5,072億円
貸出金残高
3,145億円
自己資本額
422億円
自己資本比率
18.66%
店舗数
38店舗



小樽信用金庫

預金残高
1,409億円
貸出金残高
720億円
自己資本額
51億円
自己資本比率
10.41%
店舗数
14店舗



※上記各計数・比率は、平成29年3月末現在です。